

A 分科会（概要）

(A 分科会) カリキュラム・マネジメントの適切な実施について	(協議の視点) 教育課程に基づき組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図っていくためには、どのような工夫が必要か。
------------------------------------	---

1 尾道市立三幸幼稚園の提案概要

子供が主体的に活動するためには、職員間で連携し共通認識を持つことが重要である。そのため、日々の遊びの記録をもとに職員間でカンファレンスを行い、多面的な幼児理解をふまえて指導計画を作成、見直しを図っていきながら保育を行うことで、子供自ら考えを出し合い、友達と一緒に遊びを創造することができると考え、研究主題を「考えを出し合いながら、友達と一緒に遊びを創造する子供の育成」とし、(1) 幼稚園経営構想の見直し、(2) 指導計画に活かす記録の取り方の工夫、(3) 保育カンファレンスの充実の3点に焦点を当て取り組むことで、質の高い保育を目指した実践である。

2 協議内容

(1) 協議の視点

教育課程に基づき、組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図っていくためには、どのような工夫が必要か。

(2) 質疑応答

- 記録の方法にポートフォリオを行っているが、これがどのような所に活かされているのか。
 - ・ これまでは子供の遊びの経過（ドキュメント）を撮っていたが、より子供の内面を理解するために、子供達がどのように遊んでいるのか、その時の思いが分かるような場面の写真を撮り、会話も記録するようにしている。週末に全員でカンファレンスを行い、次の週案に活かせるようにしている。
- 多忙な中でポートフォリオやカンファレンスなどを行うにあたって工夫されていることはどのようなことか。
 - ・ 職員は普段から週案をポケットに入れておき、子供の姿やその育ちをいつでも確認できるようにしている。ねらいをもって保育を進めるなかで写真を撮る視点も持つようにしている。カンファレンスでは、ポートフォリオやエピソードを出し合って子供の姿について話し合っている。それぞれの立場での見取りもあり、担任だけでは見取れなかった部分にも気付くことができる。週末は全員で次週の計画について話し合うようにしている。
- 取組において、負担に感じる所など課題はあったか、また良かった所はどんなことか。
 - ・ 職員全員が集まる時間を確保することが難しい所や、初めは写真を撮るべき場面が分からないこともあった。でも、それを写真にして“見える化”することで自分の視点が分かった。あわせて子供の姿も見取れるようになった。一つの写真を題材にして話し合いをすることは、個々で見えていなかった部分の共通理解ができる良さや、(職員間の)関係作りにも繋がっている。

- 指導計画の作成にあたって、どこにポイントを置いているか。
 - ・ その日の子供の姿をしっかりと捉え、期のねらいをふまえた視点を持つ。子供の姿から、なぜそうしているのか、どうしたいのかを見取っていく。そして、その遊びからどのような力が育っていくのかを考えることが大切だと思う。日々、記録や写真を撮って職員間でタイムリーに検証し、計画を修正することも必要である。

(3) 協議

- 教育要領が変わったことから、思いや悩み、難しさはどの園にもあり、ポートフォリオやカンファレンス、エピソード研修等、実際に園で取り組んでいても保育の改善に結びつきにくい現状があるが、上手に時間を使って、それぞれを有意義なものへ改善していくことが大切である。
 - ポートフォリオの写真は、どう撮るかが大切である。「今、この場面」と気付くことも大切で、それがわかると保育も楽しくなるのではないか。
 - ポートフォリオを通して、子ども理解や、遊びの効果、遊びからの学びの見取り等を行うことができる。これらは、幼保小連携にもつなげていけるのではないか。
 - ドキュメンテーションは一日の反省のみで終わらないようにしなければならない。また、保育のねらいと子供の姿が違っていた時は、職員で話し合い、修正・改善していかなければならない。このことが、カリキュラム・マネジメントにつながる。
 - 園全体で取り組みやすい組織体制（チーム保育）を構築する必要がある。ポートフォリオやマッピングなど、それぞれの園で工夫していくことが必要だと思う。
-

3 結論

- (1) 教育活動の質の向上を図っていくためには、子供の姿の記録、保育カンファレンス、職員や家庭とのきめ細やかな連携をとって幼児理解を深めていくことが基本で、職員全体で共有することが大切である。方法としてポートフォリオやドキュメンテーション、エピソード記録、個別の記録など多様であるが、各園の体制や実態を考慮し、持続可能なものとなるよう工夫していかなければならない。
- (2) 保育カンファレンスは、職員間で多様な視点から検証することができ幼児理解を深めていくことができる。また、トップダウンの話し合いではなく、建設的な意見を素直に言い合い、助け合い、学び合う関係を作っていくことで組織文化ができ、チーム保育の基盤となる。
- (3) 指導計画の作成は、子供の姿がベースとなる。そのためには子供のありのままの姿を受けとめ、理解しながら“めざす子供像”に向かってその時期に経験させたいことを子供主体の遊びの中で実現できるように計画をしていく。PDCA サイクルにおいては、実践してできなかったことへの反省になりがちであるが、視点を変えて、子供が「〇〇したからできた」というように肯定的に捉えてみるなど、両面から検証することでよりよいカリキュラム・マネジメントとなる。